

統計グラフコンクールに応募しませんか！

昭和61年度茨城県統計グラフコンクールの作品募集要領が下記のとおりきました。どうぞたくさんの応募をお待ちしています。

1. 目的

統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さんに資するため、県内の児童・生徒・学生及び一般県民から統計グラフを募集する。

2. 主催

茨城県、茨城県教育委員会、茨城県統計協会

3. 後援

茨城新聞社

4. 応募資格

第1部 小学校3年生以下の児童

第2部 小学校4年生以上の児童

第3部 中学校の生徒

第4部 高等学校以上の学生

第5部 一般

5. 課題

自由、ただし、第1部は児童が観察した結果をグラフにしたもの

6. 応募の方法

(1) 用紙の大きさ

第1部～第3部 B2判仕上(72.8cm・51.5cm)

第4部・第5部 B1判仕上(103.0cm・72.8cm)

(2) 紙質・色彩

各部とも紙質・色彩(単色でも可)は自由とするが、裏面の板張り、表面のセロハンカバー等は認めない。

(3) 応募点数

制限なし、ただし、2枚以上にわたる「シリーズもの」は認めない。

(4) 送付先

第1部～第3部 別途定める

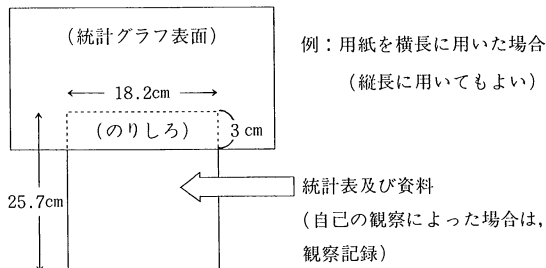
第4部・第5部 県企画部統計課

(5) 締切日

昭和61年9月8日(月)

7. 応募上の注意

- (1) 応募作品は、自分で制作したものに限る。
- (2) 応募作品の裏面に、住所、氏名、性別、年齢、職業を明記し、氏名には必ず「ふりがな」をつけること。
- (3) 第1部は観察記録を必ず添付すること。
- (4) 他から資料を利用した場合は、その取材資料の出所を統計グラフ表面の適宜の位置に明記するとともに統計表及び取材資料を別紙として添付すること。
- (5) 観察記録及び統計表(取材資料の出所を含む)はB5判(25.7cm・18.2cm)の用紙に書き、作品の裏面下に3cmの「のりしろ」で次のように貼付すること。



- (6) 応募作品の合作は5名以内に限る。

8. 入選作品の決定

応募作品は次の基準によって審査採点する。

ア 資料(適正な選択と加工)

イ グラフの表現技術

9. 入選区分及び賞

知事賞(各部1点) 県議会議長賞(各部1点)

県教育長賞(1～3部について各3点)

県統計協会総裁賞(各部5点)

茨城新聞社長賞(1～3部について各1点)

県統計協会会長賞(各部10点) 佳作 他

10. 入選作品の発表

昭和61年9月下旬に発表し、第1部～第3部については、統計教育各地区支部長及び所属学

昭和61年度作品募集中デス

校長に、第4部、第5部については本人あて通知する。

11. 全国コンクールへの出品

入選作品中、特に優秀と認められる作品について各部5点を全国コンクールへ出品する。

12. 表彰、作品展示

(1) 入選作品(佳作は除く)は茨城県統計大会会場に展示し表彰する。

(2) 入選作品は巡回展示会等で展示する。

13. 応募作品の帰属

応募作品のうち入選作品の著作権は主催者に帰属する。

14. 応募作品の返却

入選作品以外の応募作品は本コンクール終了後返却する。

15. 応募等の問い合わせ

茨城県企画部統計課

電話 0292-21-8111・内線 2652

300人余り熱心に受講

統計教育事業の一環として統計グラフ作成の指導をする方々を対象にして、統計グラフ指導者講習会を水戸(ときわ荘)、土浦(サンレイク土浦)、下館(合同庁舎)の3会場で去る6月17日~19日の3日間開催したところ、小・中学校の先生方をはじめ市町村の統計担当の方々300人余りが受講されました。

講師は3日間共、総務庁統計局の統計専門官勝矢重利氏をお招きしましたが、「統計グラフの基礎、について例題を示しながらの分かりやすい講義に、終始和やかな「ふんいき」の中で進められ、終りの

《統計グラフ指導者講習会》

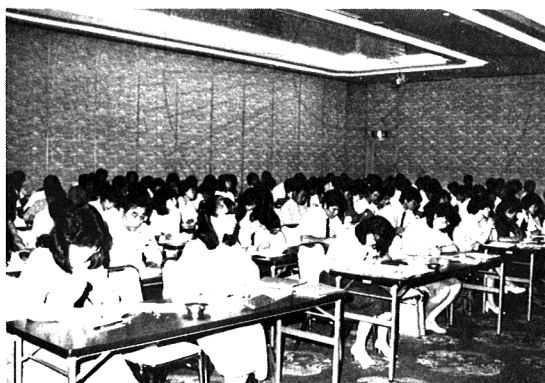
1時間は受講者に実際にグラフを書いていただきました。皆さんそれぞれ思い思いの方法で演習に取り組み、良い経験をされた事と思われます。

先生のアドバイス等も直接受けられ、今後の指導面でお役にたつものと期待いたします。

何しろ4時間という短い時間でしたので、内容的にはもの足りなく感じられた方もおいでになったかもしれませんが、先生の云われたように、この機会に統計グラフに興味をもっていただければ主催者として大変喜ばしい限りです。

参加された方々本当に御苦労様でした。

(統計課・統計指導グループ)



熱心に聞き入る受講生



「統計グラフに興味を持って下さい」と話す勝矢先生

増え続ける相談件数

— 昭和60年度消費生活相談状況 —

昭和60年度に県消費生活センターに寄せられた相談件数は5,209件、対前年比22%の伸率を記録しました。

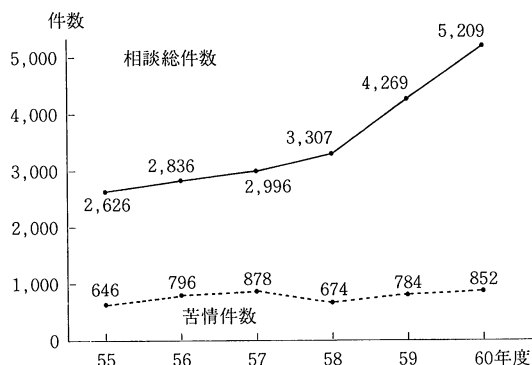
このように相談件数が増えたのは、消費生活センターの知名度の上昇もありますが、豊田商事関連の「金まがいもの商法」に関する相談506件が一挙に相談件数を押し上げたものです。

<消費生活相談の推移>

表-1に示すように相談件数は年々増加し、上昇傾向を示していますが、相談内容にも変化がみられます(表-2その1, その2)。

消費生活センターを設立して間もない昭和46年度時では、商品の「品質・機能」とか「安全・衛生」といった商品そのものに関する相談・苦情の内容が過半数を占めていましたが、10年前ごろからは、販売方法等に関する相談が増え、60年度は「販売」「契約」に関するものは56%を占めております。

表-1 相談受付件数の推移



年度	相談件数	内 訳		
		苦情	問い合わせ	要望
58	3,307件	674	2,613	24
59	4,269件	784	3,468	17
60	5,209件	852	4,333	24

表-2 消費生活相談内容別割合(その2)

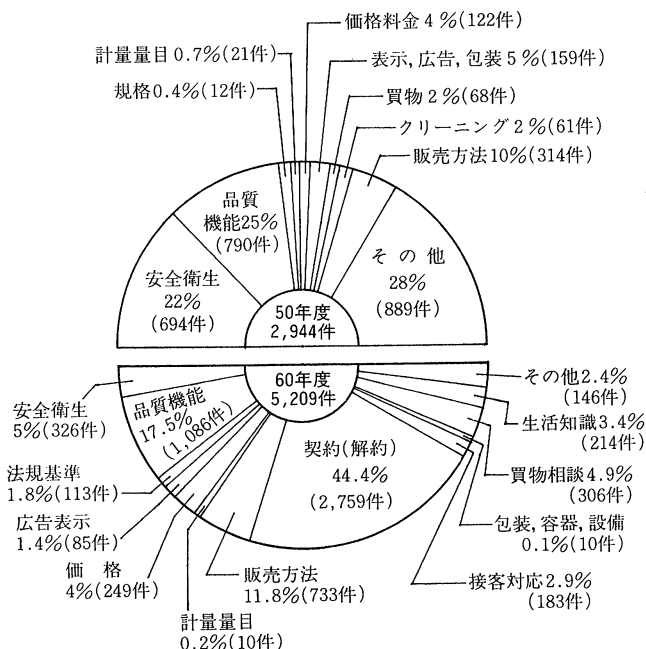
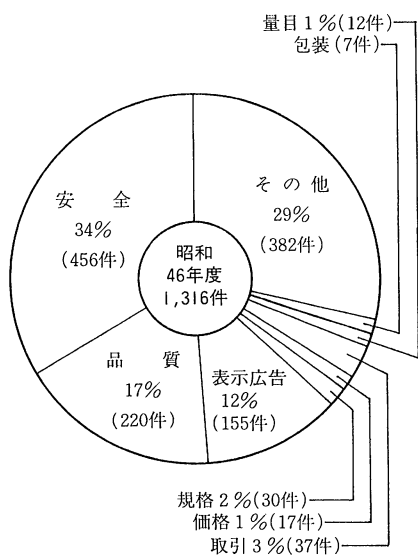


表-2 消費生活相談内容別割合(その1)



県では、統計課以外でもそれぞれに必要な統計を作成しています。今回は、茨城県消費生活センターにお願いして、消費生活相談状況をご紹介します。

特に訪問販売にかかる相談は、相談総件の44.7%、苦情相談中では58%と圧倒的です(表-3)。

表-3 訪問販売の受付状況

区分	60年			59年割合
	受付件数	訪問販売	割合	
苦情	852	494	58.0%	57.1%
問い合わせ	4,333	1,829	42.2%	35.7%
要望	24	4	16.7%	17.6%
計	5,209	2,327	44.7%	39.6%

〈訪問販売〉

苦情相談中、訪問販売にかかわるものが大部分を占めていることは前述しましたが、その推移と商品は、表-4のとおりです。

訪問販売では、相変わらず教材関係が1位であり、相談金額も4200万円と最高です。教材関係の中では、英会話関係が89件中61件を占め、そのほとんどがアポイント商法と呼ばれる電話での呼び出して、相談者の過半数が20代で、大部分が男性です。(相談事例1)

次いで、年々増加の傾向にある「健康食品」は、

表-4 訪問販売による苦情の推移

年度	57	58	59	60
訪販件数	388	458	448	494
前年比	28%増	30%減	44%増	10%増
苦情件数に占めた割合	44%	46%	57%	58%
主なる商品件数	教材 119	教材 85	教材 88	教材 89
	自販機 53	消火器 36	消火器 53	健康食品 58
	消火器 51	衛生具 25	健康食品 34	トイレファン39
	化粧品 19	自販機 24	自販機 24	太陽熱水容器27
	衛生具 13	健康食品 22	衛生具 20	ガスもれ警報器 26
	表札 11	太陽熱温水器10	太陽熱水容器14	寝具セット 25
	健康食品 11	化粧品 9	鍋セット 14	和服 19
	ミシン 10			鍋セット 19

相談金額(2300万円)とも第2位となっています。平均寿命が伸び高齢化社会を迎え、長寿、健康に対する意識が強いというだけでなく、若い女性の美容に対する願望の強さ、それに加え強引な販売方法(キャッチセール)が問題です。(事例2)

60年度に急激に増えたのは「トイレファン」「ガスもれ警報」に関する苦情で、苦情者の年齢層は他の相談事例に比し60歳代以上のウエイトが高くなっています。

今後増加する相談内容の予測は難しいのですが「鍋セット」「健康食品」等については増加の傾向にあるし、60年度集中して寄せられた「指輪」に関する事例は、県都に支店が設置されたことにより新たに生じたものだけに、今後注目せざるを得ない事案です。(事例3)

〈事例1〉

呼び出されて購入契約した会員付英語会話教材を解約したい。

—相談概要— 以前出したアンケートの中から抽選で腕時計が当たった。取りに来るようと電話で呼び出され、指定された場所に行くくとグァム島へ行く権利の当たる抽せん会があると個室に入れられ、そこで会員になると旅行が安くなる。海外に行くためには、英会話をおぼえた方が良く長時間(3時間程度)説得され、断れる雰囲気ではなかったので契約した。翌日、思い直して解約の申し出をしたら、1割の解約料を支払うよう云われた。

昭和60年4月 男性(22歳) 会社員
商品 会員特典付英会話教材 664,600円
—処理結果等— 相談者にはクーリングオフ(無条件解約)期間内の解約として書留ハガキを出すようアドバイスすると共に販売店に対し、セールスは適正な方法で行うよ

◇統計の窓

う申し入れる。

無条件解約成立……処理日数7日。

〈事例2〉

半分は返品したい、キャッチセールで多量に購入させられた健康食品

—相談概要— 日立市の路上でキャッチされ、喫茶店で1時間ほど、人体は酸性に傾きやすいとか、スリムな身体にして美しくなりなさいとか云われ断りきれなく購入契約した健康食品について、半分は返品したい。

昭和60年5月 女性(20歳) 会社員

商品 メタモルフ, サンクラス外 665,989円

—処理結果等— センターに来所する以前に自主交渉したが駄目。本センターでは、クーリングオフ期間を経過していたので、支店長に高額、過量販売を理由に解約を申し入れ、未使用分引き取ることで解決。

処理日数13日 解約損料 227,500円

〈事例3〉

同一趣旨の苦情が多発した事例

—相談概要— 電話勧誘で是非と誘われ、喫茶店で説明を受けた。月に500円会費を60年支払う会員になれば安く旅行に行けて、商品も割安で買える。また、入会サービスとしてダイヤの指輪を無料であげるが便宜上クレジット申込み商品を「ダイヤの指輪」にして欲しいとの勧誘に負け契約した。後で考え直して解約を申し入れたが断られた。

昭和60年10月7日 女性(20歳) 会社員

商品 旅行会会員加入契約とダイヤの指輪

営業所開設月日 昭和60年10月1日

昭和60年10月15日 女性20歳 昭和60年10月16日 女性20歳

60 10 20 女性22 60 10 21 女性21

61 2 20 女性22 61 2 25 女性23

61 2 25 女性20

〈苦情・相談受付状況〉

消費生活センターに寄せられる相談方法は、電話によるものが83%と圧倒的に多く、気軽にご利用いただいておりますが、相談内容が複雑な苦情相談については、来所の割合が増え33%となっております。(表-5)

表-5 受付方法別状況

	問い合わせ・要望	苦情	計
電話	3,804件	531件	4,335件(83%)
来所	351件	283件	634件(12%)
文書	19件	22件	41件(1%)
その他	183件	16件	199件(4%)
計	4,357件	852件	5,209件(100%)

相談者性別は、男性は29%であり、女性が圧倒的に多い(表-6)。このレポートでは資料は掲載いたしていませんが、男性の相談内容は土地、建物関係、教養娯楽及び資産形成(豊田商事関連も含め)が目立ち、女性では、食料品、クリーニング、被服等が多くなっています。

表-6 男女別受付状況

	問い合わせ・要望	苦情	計
男	1,208人	290人	1,498人(29%)
女	3,149人	562人	3,711人(71%)
計	4,357人	852人	5,209人(100%)

年代別については、苦情相談のみについて集計いたしました。20代30%、30代26%と20~30代で過半数を占めています。(表-7)

表-7 苦情相談の年齢別状況

年齢	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~	計
件数	37	260	220	154	91	90	852

市町村別の受付状況は、次表のとおりです

表一 昭和60年度市町村別相談受付件数

市町村名	種別	苦情	問い合わせ	要望	計	市町村名	種別	苦情	問い合わせ	要望	計
1	水戸市	118	1,083	6	1,207	48	鹿島町	6	44		50
2	日立市	13	180		193	49	神栖町	4	53		57
3	土浦市	14	101	1	116	50	波崎町	2	19		21
4	古河市	7	43		50	51	麻生町	5	31		36
5	石岡市	9	62	1	72	52	牛堀町	1	4		5
6	下館市	23	58		81	53	潮来町	1	30		31
7	結城市	10	26		36	54	北浦村	6	15		21
8	竜ヶ崎	19	63	1	83	55	玉造町	3	18		21
9	那珂湊	9	63		72	56	江戸崎町	2	21		23
10	下妻市	5	30		35	57	美浦村	5	4		9
11	水海道	11	46		57	58	阿見町	15	26		41
12	常陸太田	7	64		71	59	牛久町	16	65		81
13	勝田市	51	347	2	400	60	莖崎町	17	20		37
14	高萩市	9	33	1	43	61	新利根村	3	6		9
15	北茨城市	7	56		63	62	河内村	5	10		15
16	笠間市	12	46		58	63	桜川村	6	3		9
17	取手市	48	207	2	257	64	桜村	3	9		12
18	岩井市	8	27	1	36	65	出島村	4	11		15
19	常澄村	4	32		36	66	玉里村		5		5
20	茨城町	8	67		75	67	八郷町	4	29		33
21	小川町	11	33		44	68	千代田村	11	24		35
22	美野里町	5	27		32	69	新治村	2	9		11
23	内原町	8	31		39	70	榑村	17	58		75
24	常北町	4	19	1	24	71	谷田部町	17	25	1	43
25	桂村	2	12		14	72	伊奈町	13	40	1	54
26	御前山村	2	6		8	73	谷和原村	5	8		13
27	大洗町	12	44		56	74	豊里町	5	10		15
28	友部町	5	70	1	76	75	筑波町	5	21		26
29	岩間町	4	24		28	76	大穂町	2	13		15
30	七会村		3		3	77	関城町	4	22		26
31	岩瀬町	4	23		27	78	明野町	16	18		34
32	東海村	11	85		96	79	真壁町	5	22		27
33	那珂町	19	110		129	80	大和村		6		6
34	瓜連町	3	21		24	81	協和町	8	12	1	21
35	大宮町	9	50		59	82	八千代町	3	13		16
36	山方町	7	9		16	83	千代川村	1	4		5
37	美和村	2	10		12	84	石下町	10	15		25
38	緒川村	2	3		5	85	総和町	14	26		40
39	金砂郷村	1	10		11	86	五霞村		1		1
40	水府村	2	6		8	87	三和町	14	28		42
41	里美村	3	6		9	88	猿島町	7	7		14
42	大子町	4	23		27	89	境町	6	21		27
43	十王町		5		5	90	守谷町	9	51	1	61
44	旭村	4	13		17	91	藤代町	21	60	1	82
45	鉾田町	9	40		49	92	藤根町	16	24	1	41
46	大洋村	2	17		19	県外	5	33	1	39	
47	大野村	1	5		6	計	852	4,333	24	5,209	

(県消費生活センター)